

2015年12月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

月平均500 hPa 高度をみると、北米から東アジアにかけて波列パターンとなり、北米東部、ヨーロッパ、東アジア北部～日本付近で正偏差、大西洋北部や西シベリアでは負偏差となった。ユーラシア大陸南部から日本の東海上にかけての偏西風は南北に蛇行し、日本付近では平年の位置より北寄り流れを流れた。対流圏下層の気温は、北半球の広い範囲で高温偏差となり、特に北米東部、ヨーロッパ、中央シベリアから東アジア北部にかけて明瞭だった。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、西部～中部太平洋赤道域で活発、フィリピン付近、インドネシア付近で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、上旬は不明瞭で、中旬から下旬にかけてインドネシア付近～太平洋中部を東進した。対流圏下層では、インド洋西部、太平洋西部～中部で低気圧性循環偏差が南北半球対で見られ、赤道域では太平洋で西風偏差が卓越した。対流圏上層では、インド洋、太平洋中部～東部で高気圧性循環偏差が南北半球対で見られた。南方振動指数は -0.7 だった。

世界の天候

2015年12月の世界の月平均気温偏差は $+0.67^{\circ}\text{C}$ （速報値）で、1891年の統計開始以来、最も高い値となった。12月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約 $0.74^{\circ}\text{C}/100$ 年（速報値）である。

主な異常天候発生地域は次のとおり。

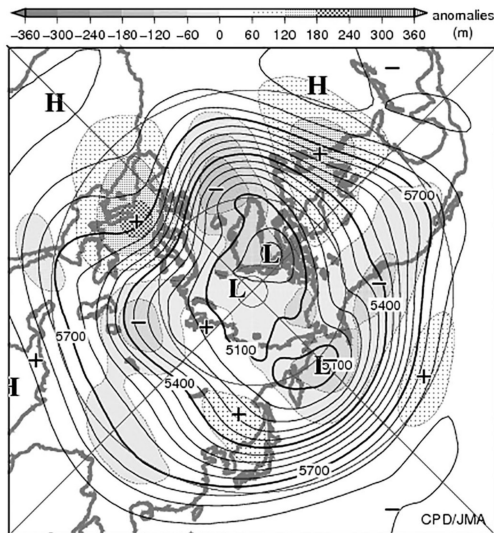
- 低緯度域の各地で異常高温となった。
- ヨーロッパ東部～北アフリカ西部では異常高温・異常少雨となった。
- カナダ南東部～米国南部では異常高温となり、米国中西部～南部では異常多雨となった。

（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ

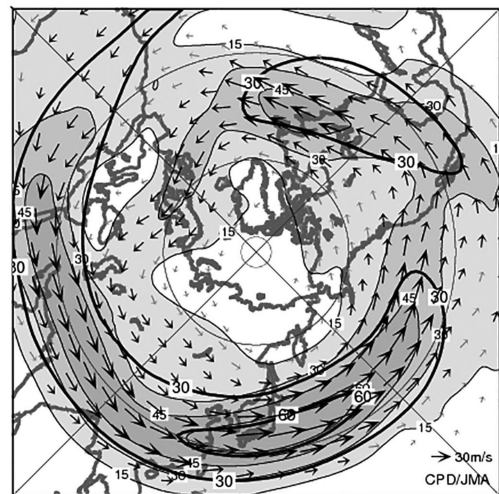
「気候系監視速報」をご覧ください。

<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



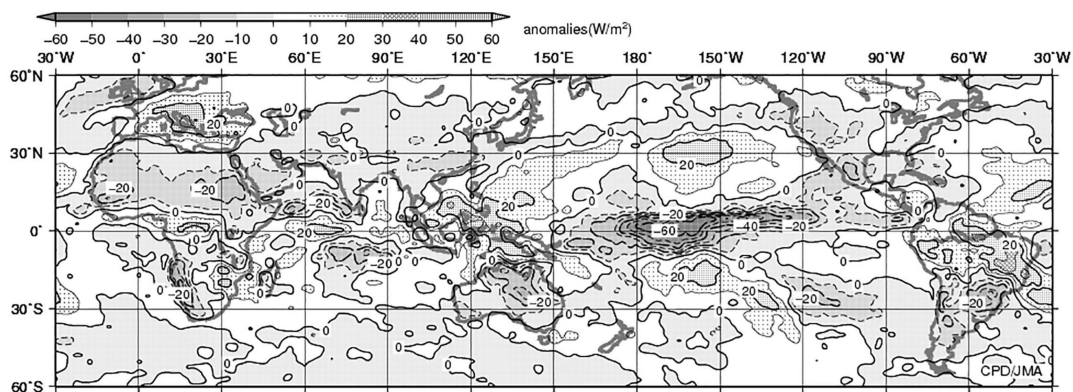
2015年12月の北半球月平均 500 hPa 高度及び平年偏差

等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年の平均値。

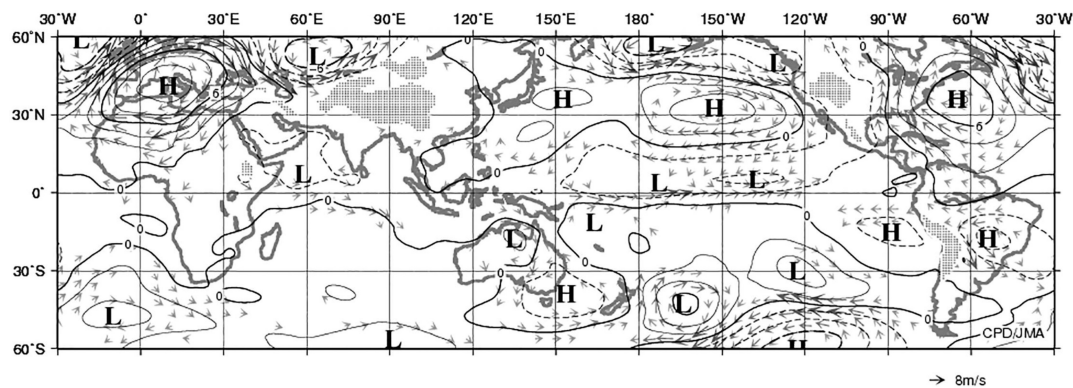


2015年12月の北半球月平均 200 hPa 風速及び風ベクトル

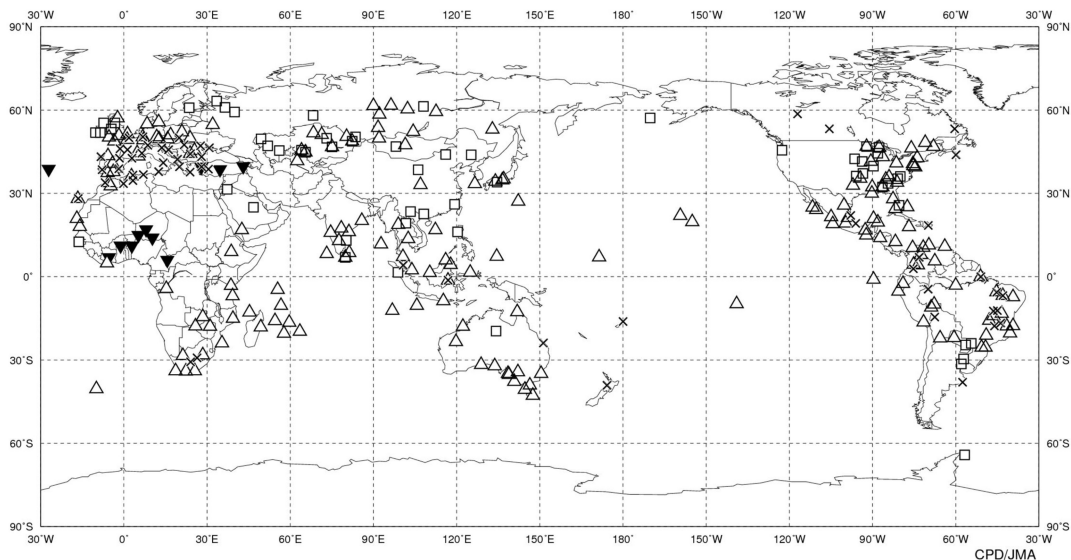
等値線間隔は15 m/s。太実線は平年の風速で等値線間隔は30 m/s。平年値は1981～2010年の平均値。



2015年12月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁（NOAA）より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981～2010年の平均値。



2015年12月の月平均 850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981～2010年の平均値。



2015年12月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。